

# YAコーナーに新しく入った本



## WE'RE

長岡市立中央図書館ヤングアダルト  
News Vol.36 2014.8

## YOUNG-JIN®

# 夏。

夏こそ、どこか涼しいところを見つけて、読書はいかが？  
冷たいドリンクを飲みながら、本を読むのもいいものです。

### 『クラスメイツ（前期・後期）』

森 絵都／著（偕成社）

4月から中学生になった、引っ込み思案の千鶴。姉に鈍行列車とからかわれながらも、自分自身、そう言い聞かせて少しずつ新しい環境になじんでいく。クラスのひとりひとりを主人公にした短篇小説のオムニバスで、どこから読んでも楽しめます。



### 『伝説のエンドーくん』

まはら 三桃／著（小学館）

緑山中学に語り伝えられる、伝説の「エンドーくん」。校内のあちこちにあるエンドーくんの落書きをきっかけに、生徒や先生が少しずつ変わっていく…。はたして、エンドーくんの正体とは。



### 『青春ぱんだバンド』

滝上 耕／著（小学館）

勉強できない、彼女いない…。そんな<sup>しゅうすけ</sup>秋祐が通うのは、田舎の名門校。ある日、地元のヤンキーにおどされ、バンドを結成。ところが、演奏曲はさだまさし(?)。愉快的な同級生と憧れの美少女も加わり、秋祐のひと夏の行方は？



### 『夏の階段』

梨屋 アリエ／著（ポプラ社）

夏期講習からの帰り道、奇妙なものに出会った。ごく普通の階段だ。しかし、登りつめた場所には、あるべきものがない。階段だけがあるのだ。高校生の玉木はその階段がなぜか気になってしまい、立ち寄ってしまう…。5人の高校生が織りなす、青春短編集。



●ご感想、本の紹介など、中央図書館のヤングアダルトコーナーに設置されているポスト、または下記のメールアドレスにお寄せください。メール投稿の際は件名にYOUNG=JIN、本文に年齢・ペンネームを明記してください。

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。

編集・発行 長岡市立中央図書館 (0258-32-0658)

図書館HP <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>

携帯電話用HP <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/m/>

図書館メールアドレス [lib@city.nagaoka.niigata.jp](mailto:lib@city.nagaoka.niigata.jp)

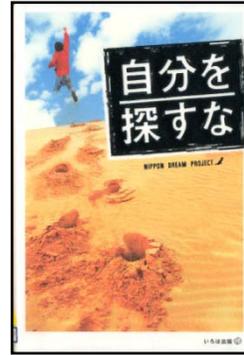




### 『もうひとつの夏休み。』

芦原 すなお・草野 たき・香坂 直・沢村 鉄・  
藤堂 絆・前川 麻子/著 (シャイブ)

ワクワクするけれど、どこか切ない…。そんな夏の  
空気を感じたことはないでしょうか？ 新しい自分に  
出会う夏、ほろ苦い恋の思い出など、忘れられない夏  
の思い出を描いた、6人の作家によるアンソロジー。



### 『自分を探すな』

日本ドリームプロジェクト/編 (いろは出版)

「自分は、探すものじゃない。自分は、つくっていく  
ものだ。」(本文より)

夏休み、何か新しいことに挑戦してみたいと思っ  
ている人も多いのでは？ 15人の大学生の体験記が、  
きっと迷っているあなたの背中を押してくれるはず。



### 『夏のこどもたち』

川島 誠/著 (角川文庫)

成績優秀だがちょっと皮肉屋の朽木元は、中学3年の男  
子。事故で片眼をなくしている。学校や同級生をナナメに  
見て、毎日をかたたくく過ごしていたが、ある日学校一の  
問題児と一緒に行動するハメになり、何かが変わっていく  
…。日本版「ライ麦畑でつかまえて」とも称された、青春  
の切なさが痛いほど伝わってくる作品です。



### 『靴を売るシンデレラ』

ジョーン・ボウアー/著 灰島 かり/訳 (小学館)

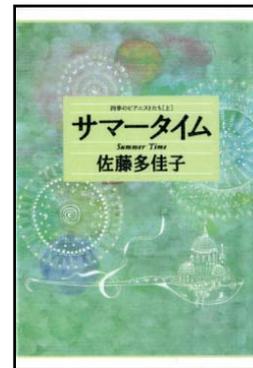
アメリカ、シカゴ育ちのジェナ・ボーラーは15歳。  
バイト先の靴店で、イキイキと靴を販売していた。ある  
日、靴を売る才能を見こまれて、靴店のオーナーの運転  
手になることに…。免許取りたてのジェナ。無事テキサ  
スまでたどり着ける?! そしてオーナーの目的とは？  
現代のシンデレラは、靴を売ります！



### 『ラストサマー さよならの季節に』

アン・ブラッシュェアーズ/著 雨海 弘美/訳  
(ヴィレッジブックス)

大人から子どもへと変わる境目の夏を過ごす、姉ライリ  
ーと妹のアリス、そして隣家の少年ポール。彼らのひと夏  
のストーリーを、ぜひ一緒に体験して下さい。読み終わる  
とあなたも大人になっているかも…。



### 『サマータイム：四季のピアニストたち 上』

佐藤 多佳子/作 (偕成社)

6年前の夏のある日、プールに行った僕は、左腕の  
ない男の子と出会った。彼の名前は浅尾広一。プール  
で突然の大雨にうたれた僕たちは広一君の家に行っ  
た。そこで聞いた広一君の弾くサマータイム。悲しく  
胸にしみるメロディー、このメロディーがいつまでも  
僕の胸に響く…。続編『九月の雨：四季のピアニスト  
たち 下』もあわせてどうぞ。

